

# 櫛田川自然再生の目標(案)

平成23年9月27日

# 目 次

1. 自然再生の必要性	.....	1
2. 目標設定の考え方	.....	2

# 1. 自然再生の必要性 — 縦断的連続性確保の必要性 —

## ① 回遊魚の分布

- ・ 連続する堰の上流（新両郡橋付近より上流）に魚類生息場・産卵場として良好な環境が存在しながら、堰によって遡上できない回遊魚が存在している。このため堰上流では、回遊魚の分布（構成比）が大幅に減少し、生態特性から想定される種構成となっていない。

⇒ **健全な魚類の生活史を完結させることが必要**

## ② 人との関わり

- ・ かつては農業としての水利用だけでなく、アユ漁を中心とした漁業としての利用も活発であった。水利用の合理化や堰の恒久化により農業用水としての利便性は向上したが、魚類の移動の支障となったことで、アユ漁を中心とした漁獲量は減少傾向にある。

⇒ **アユを中心とした川に関わる文化の回復・継承が必要**

## ③ 地域のニーズ

- ・ 地域からは魚道改築に対するニーズが挙げられており、改善の要望がある。

⇒ **地域ニーズに応じた対応が必要**

## 2. 目標設定の考え方 ー対照河川の選定ー

- ・ 自然再生（縦断的連続性の確保）の目標で対象とする魚種は、対象河川を選定し、これを参考にして設定する。
- ・ 対照河川は、下記理由により宮川を選定する。  
 河口は、同一湾内であり、隣接している。  
 河口部での回遊魚の出現種はほぼ同一であり、魚類相が類似している。  
 宮川の上流山間部（粟生頭首工）まで堰がないため、支障なく移動できる環境がある。



河口部における回遊魚の確認種の比較

	榎田川	宮川
チチブ	●	●
イッセンヨウジ	●	
カマキリ	●	●
ウツセミカジカ	●	●
カワアナゴ	●	●
ボウズハゼ	●	●
ウナギ	●	●
ヌマチチブ	●	●
ゴクラクハゼ	●	●
シマヨシノボリ	●	●
トウヨシノボリ		●
スミウキゴリ	●	●
ウキゴリ	●	●
ウグイ	●	●
アユ	●	●
シラウオ		●
種数合計	14	15

河口部での回遊魚の出現種がほぼ同一

堰がないため、支障なく移動できる

出典：河川水辺の国勢調査



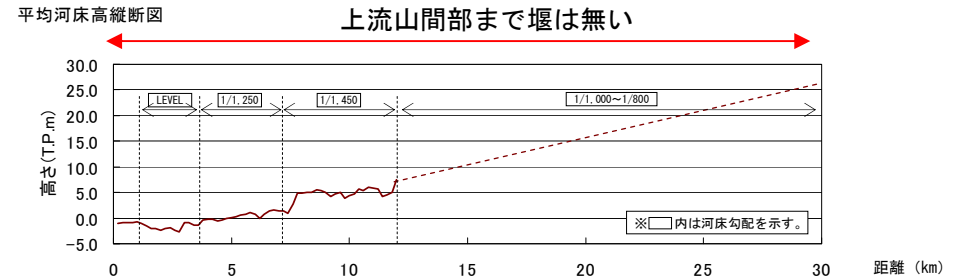
## 2. 目標設定の考え方 ー対象魚種の選定ー

- 対象魚種の選定は、宮川に生息する回遊魚種の遡上状況を参考に、縦断の移動障害が改善されれば生活史を完結する可能性のある魚種とする。ただし、陸封しやすい種や生活史不明種は対象から外す。

### <櫛田川>



### <宮川>



河川	回遊魚	確認地点 (直轄区間)	確認地点 (指定区間)	定される生息区間
櫛田川	チチブ	●	●	0-10, 10-20, 20-45
	イッセンヨウジ	●		0-10, 10-20, 20-45
	カマキリ	●		0-10, 10-20, 20-45
	ウツセミカジカ	●		0-10, 10-20, 20-45
	カワアナゴ	●		0-10, 10-20, 20-45
	ボウスハゼ	●	●	0-10, 10-20, 20-45
	ウナギ	●	●	0-10, 10-20, 20-45
	アマチチブ	●	●	0-10, 10-20, 20-45
	ゴクラクハゼ	●	●	0-10, 10-20, 20-45
	シマヨシノボリ	●	●	0-10, 10-20, 20-45
	トウヨシノボリ		●	10-20, 20-45
	スミウキゴリ	●	●	0-10, 10-20, 20-45
	ウキゴリ	●	●	0-10, 10-20, 20-45
	ウグイ	●	●	0-10, 10-20, 20-45
	アユ	●	●	0-10, 10-20, 20-45
シラウオ		●	10-20, 20-45	

(出典：河川水辺の国勢調査、H18,19魚道調査)

河川	回遊魚	確認地点 (直轄区間)	確認地点 (指定区間)	定される生息区間
宮川	チチブ	●	●	0-10, 10-20, 20-30, 30-68
	イッセンヨウジ	●		0-10, 10-20, 20-30, 30-68
	カマキリ	●	●	0-10, 10-20, 20-30, 30-68
	ウツセミカジカ	●	●	0-10, 10-20, 20-30, 30-68
	カワアナゴ	●	●	0-10, 10-20, 20-30, 30-68
	ボウスハゼ	●	●	0-10, 10-20, 20-30, 30-68
	ウナギ	●	●	0-10, 10-20, 20-30, 30-68
	アマチチブ	●	●	0-10, 10-20, 20-30, 30-68
	ゴクラクハゼ	●	●	0-10, 10-20, 20-30, 30-68
	シマヨシノボリ	●	●	0-10, 10-20, 20-30, 30-68
	トウヨシノボリ		●	10-20, 20-30, 30-68
	スミウキゴリ	●	●	0-10, 10-20, 20-30, 30-68

(出典：河川水辺の国勢調査)

### 《考え方》

- 櫛田川で確認されている回遊魚のうち、陸封しやすい種、生活史不明種は対象から外す。  
陸封しやすい種：アマチチブ、ウキゴリ  
生活史が不明な種：イッセンヨウジ、カワアナゴ、ウナギ
- 宮川の生息状況を参考に櫛田川における対象魚種は、縦断の移動障害が改善されれば生活史を完結する可能性のある魚種（上記に挙げた種を除く）を対象と設定する。  
対象魚種：チチブ、カマキリ、ウツセミカジカ、ボウスハゼ、ゴクラクハゼ、シマヨシノボリ、トウヨシノボリ、スミウキゴリ、ウグイ、アユ

## 2. 目標設定の考え方 一人とアユ文化との関わり

### ●アユを利用する文化

- ・ 櫛田川流域は、伊勢神宮との関わりが強く、アユを利用する文化が歴史的に発達してきた。このことは、隣接する宮川流域も同じである。
- ・ アユを利用した文化として、宮川では伊勢神宮にアユ、宮本神社にアユずしを奉納する地域文化が受け継がれている。一方、櫛田川ではアユで栄えた料亭のにぎわいが無くなり、衰退の一途である。
- ・ 櫛田川では、縦断的連続性の機能回復にあわせ、アユを中心とした川に関わる文化の継承を目指す。

### 《櫛田川のアユ文化》

#### ○かつて

- ・ 櫛田川名物のアユ料理を屋形船や料亭（鹿水亭など）で味わうことができた。  
出典：櫛田川（1983）  
松阪いまむかし（1993）
- ・ 櫛田川のアユは、大正天皇や伊勢神宮など、奉納していた。  
出典：多気町史（1992）  
櫛田川（1983）  
松阪いまむかし（1993）

#### ○現在

- ・ 櫛田川における伝統的なアユ料理を味わえる店（甘露煮店）が数軒残る程度（2011年）となっている。  
出典：松阪いまむかし（1993）  
多気町ヒアリング（2011）



### 《宮川のアユ文化》

#### ○かつて

- ・ 古くより宮川のアユは、伊勢神宮に奉納していた。  
出典：神宮祭祀の研究（2007）  
宮川環境読本（2005）
- ・ 伝統料理として“アユずし（くさりずし）”があり、伊勢神宮や宮本神社などに奉納していた。  
出典：宮川河口海域におけるアユの分布生態調査報告（2002）  
美し国 みえの食文化（2007）

#### ○現在

- ・ 宮川のアユは、伊勢神宮への奉納（2005年）やアユずしとして宮本神社に毎年奉納されており、地域に文化が受け継がれている。  
出典：伊勢市ヒアリング（2011）  
宮本神社ヒアリング（2011）  
宮川河口海域におけるアユの分布生態調査報告（2002）